iDi info

季刊誌

2023 夏 SUMMER

VOL.008

■iDiメッセージ

鴨井 久一 iDi 歯科医療情報推進機構 理事長

小森 成 iDi 歯科医療情報推進機構 理事

■特別寄稿

iDi設立20周年にあたって

藤木 敏 元東京社会保険事務局保険部・指導医療官（厚生労働技官）

■iDi認定歯科医師インタビュー

小巻 健二 医療法人健昌会 コマキ歯科（山梨県）

竹内 貴広 医療法人緑歯会 グリーン歯科（埼玉県）

iDi Institute of Dental Information

特定非営利活動法人 歯科医療情報推進機構

Recycle
貴金属分析・精錬

自社工場にて高精度な分析精錬を行い、使用済の貴金属を 1g たりとも無駄にする事なく回収いたします。回収した貴金属はインゴットとしてだけでなく、歯科用合金「キャストマスター」や、貴金属粘土「アートクレイシルバー」としても生まれ変わります。

Clean
産業廃棄物適正処理

第三者評価機関として都が指定した公益財団法人東京都環境公社より、優良性基準適合の認定（産廃エキスパート）を取得しております。全国の事業所につきましても同様の基準で産業廃棄物を適正処理する体制を構築しております。

Support
歯科研修会場 DHA

歯科医師・技工士・衛生士の皆様の学究活動にお役に立つことを第一義とし、個人・スタディグループ・学会等、主催を問わず会議・講習会・実習会など多目的に有効利用してください。

intertek ISO 9001:2015 ／ ISO 14001:2015 本社工場／四谷工場

JAPHIC 1707130089 対象：Ag営業部

◆ISO9001認証取得
◆ISO14001認証取得
◆LPPM認証取得
◆JAPHIC認証取得

LPM LONDON PLATINUM & PALLADIUM MARKET

相田化学工業株式会社

歯科営業部
〒183-0026 東京都府中市南町 6−31−2
TEL：042-366-1201 FAX：042-366-3101
札幌・仙台・新潟・郡山・埼玉・千葉・神奈川・東京・甲府
長野・静岡・名古屋・大阪・広島・香川・福岡・鹿児島

iDi 理事長メッセージ

鴨井 久一
Kyuichi Kamoi

歯学博士、医学博士
iDi 歯科医療情報推進機構 理事長

1979年 日本歯科大学歯周病科教授
1995年 日本歯科大学付属病院長
2001年 日本歯科大学大学院長
2004年 日本歯周病学会理事長
2005年 日本歯科大学名誉教授
2006年 ウイーン大学再生医療研究所客員教授
2010年 カンテブール歯科大学客員教授
2013年 瑞宝中綬章受章

国民皆歯科健診に向けて

去る5月25日、国民全員が生涯を通して定期的な歯科健診を受診する「国民皆歯科健診」の実現に向けた「歯科口腔保健推進法」の改正案が超党派で了承され、国会への提出・承認の運びとなった。従来の年齢別、性別などの個別的対応でなく生涯を通じた歯科健診の具体的検討を行うことで、歯科健診の充実を図ることを目的としている。

現在、歯科健診を義務化しているのは1歳半、3歳と小中高生などに限られている。さらに、40～70歳の歯周病検診を行なっているが、自由検診のため受診率は5%前後と低い状態にある。従って、今までの歯科保健対策に加えて、年齢別に区分化し、その中で必要な検査システムの導入を図り、受診者が進んで歯科健診を受けるようになるシステム化が必要である。

特に、全身の健康維持への歯科関与は歯周医学の中で歯周病原細菌がアルツハイマー病（脳）から大腸のバクテロイデス属菌に至るまで、全身の各器官で検出され歯周病の関与が明らかにされている。幼児期、学齢期では、う蝕予防が中心となるが、学校歯科保健を含めて、口腔衛生の必要性と口呼吸などの器質的改善のアドバイスも必要となる。成人期の歯周病予防対策、高齢者（要介護者）を含めて口腔ケアの重要性は口内だけでなく全身の臓器との関連を含めて予防の重要性をEBMに基づいて、わかりやすく口腔のフレイルとの関連を理解させることは本健診の目玉となろう。

2000年の初めに、厚労科研費で歯周病の唾液検査の有用性を報告したが、全国規模で歯周病学会関与の大学20数校、岩手県、山梨県、香川県歯科医師会参加の共同研究を行なった。現在でも、その方法論に準じて唾液検査による歯周病の進行度と処置後の有用性を応用している診療所を仄聞している。CPIのコード別分類も有用で精密化されているが、集団検診では時間的拘束もあり、唾液採取は検査会社と協力して、短時間で採取可能であり、結果の説明もわかりやすく、危険、安全などの区分けが明瞭に理解でき、当事者にもわかりやすく理解できるような説明が必要となる。歯周病原性細菌にはPCR検査を行い（Pg、Tf、Pi）菌の検出も可能であり、生化学的検査でヘモグロビン（Hb）、乳酸脱水素酵素（LD）の活用で歯周病の予後を判定する材料となる。

国民皆歯科健診に向けてわかりやすく、歯科健診の意義を国民の皆さんに理解してもらう方法として口腔内検査値の整備と理解が必要で、健康に生きる大切さを口からの取り組みで発信し、医科の検査値と同様に理解、定着してもらうことが大切である。

iDi 理事メッセージ

小森 成
Akira Komori

歯科医師、歯学博士
iDi 歯科医療情報推進機構 理事

1992年 長崎大学大学院歯学研究科 修了
1999年 日本歯科大学歯学部歯科矯正学教室 講師
2009年 同大学附属病院矯正歯科 准教授
2013年 同大学同病院同科 教授
2019年 同大学同病院 客員教授、
東京都国民健康保険団体連合会 常務処理審査委員

変わるもの、変わらないもの

通勤電車に乗ると新聞や本を読むぐらいしかすることがなくて電車広告を眺めて退屈な時間を過ごすというのが少し昔の光景だった。2007年に或る経営者が電話をreinventすると宣言し、市場に出てきたスマートフォンは瞬く間に広がり、それまでの携帯電話はガラパゴス的存在になった。当初、reinventという表現は大袈裟に感じたものだが、個人や企業がその革新性に気づいて新たなビジネスを創出し続け、日常生活を変えている。COVID-19に感染した時は検査結果をスマートフォンで撮影してアップロードすると自治体の支援を受けられた。電車の乗客の大半がスマートフォンを覗いている光景を見るとreinventに納得する。技術革新、あるいは既存技術の再統合による新たな価値の創造は歯科医療においても無縁ではない。インプラントやCAD/CAM補綴物は、歯を失ったのに人工の歯が機能する、印象材がなくても口腔内を印記ができる、といった患者の実感を伴う変化をもたらした。

矯正歯科は歯を移動することにより口腔機能を回復する治療分野であり、個々の歯を3次元的に移動させることのできる治療法としてマルチブラケット法が確立されている。確立されているとは言ってもマルチブラケット法の習得は容易ではなく、卒前教育では深く扱われない。治療学としての知識の他に、ブラケットの位置付け、ワイヤーの選択と屈曲、バイオメカニクスに基づく力の処方等、様々な治療手技が求められる。治療手技が広く標準化されていないことも矯正歯科の理解を妨げている。一口にマルチブラケット法といっても、○○テクニック、○○フィロソフィー、○○システムと称する多くの技法が存在し、初学者を惑わす。

一方、アライナーと呼ばれるマウスピース型カスタムメイド矯正装置においては、歯の移動を想定した予測模型上で熱可塑性プラスチックを成形させて作製し、移動量に応じた複数のアライナーが用いられる。アライナーの原型は1960年代に実用化され、当時は石膏模型とワックスで作製された予測模型を用いて熱可塑性プラスチックが成形された。複数のアライナーが必要な際は元の予測模型を複製して次の予測模型を作製するため、多くのアライナーを要する治療は可能ではあるが技工の工程が多くなるため現実的ではなかった。現代に至って、ITや産業用ロボットの開発により大半の技工が機械化され、多くのアライナーを要する治療に対応できるようになった。しかし歯を把持して矯正力を加えるという基本構造は変わらないため、把持が不十分で予定通りの歯の移動が得られないという治療上の限界は存在する。

アライナーにおいては装用することが治療であり、マルチブラケット法のような各種技法は存在しない。この違いから、技術革新により矯正歯科の知識がなくてもアライナーで治療ができるようになったという誤解が一部の医療者の間で生じたようだが、矯正歯科の治療学としての知識が必要なのは言うまでもない。3Dスキャナーによる印象採得やシミュレーション画像を見ると何か凄いことが行われているような期待感を抱く。ビジネス戦略と巨額の資本調達の賜物である工場では多くの工程が自動化されて驚くべき速さで技工が進み、尋常ではない未来感が漂う。掛け値なしに凄い。しかし、出来上がるのは通常のアライナーであり、臨床の光景は普通である。

企業は利潤を追求しビジネス規模の拡大のために医療機関に様々なインセンティブを提案する。アライナーが最新の技術を駆使して作製されていることを捉えて、アライナー自体が最新の矯正装置であるかのように紹介し、先端治療であると患者を誤認させる医療広告を散見するが、実態と異なる。アライナーの作製工程は変わったが、患者に提供する医療の質という点においては何も変わっていない。

特別寄稿

iDi設立20周年にあたって

藤木敏
元東京社会保険事務局保険部・指導医療官（厚生労働技官）

設立の目的と経緯

iDiは2003年、歯科医療の情報開示と第三者による機能評価を目的として設立されました。主な活動内容は、歯科医療の評価基準の策定とそれに基づく歯科医療施設の評価、歯科医療に関する情報開示のための講演会の開催、歯科医療従事者に対する研修です。

活動のきっかけとなったのは、医科病院を対象として1995年に設立された日本医療機能評価機構による病院機能評価の存在でした。しかし入院医療の分野で始まった第三者評価の動きは、残念ながら歯科医療の分野には及ぶことはありませんでした。歯科医療は外科的処置を中心とする医療分野であり、患者の安全安心（とりわけ院内感染と不慮の事故の防止）が何よりも重要となります。そこで歯科医療機能の第三者評価の必要性を訴える有志が集まり、iDiの設立に向けた準備が開始されたのです。

歯科医療機能評価の実施と課題

iDiが設立されてからは歯科医療機能評価の基準づくりに多くの時間と労力が注がれました。病院機能評価の審査基準づくりに参加した専門家にも協力をいただきながら、歯科独自の評価ポイントや調査方法を練り上げ、全188の審査項目を確立しました。これらについて審査を受け一定以上のレベルであると認められた歯科医療機関には、iDi認証マークが与えられ、医院内外での掲示やホームページでの掲載を通して広くPRすることが認められました。これまで多くの歯科医療機関が受審し認証マークを取得し全国各地で歯科医療の質の向上と患者安全の確保に貢献しています。

患者安全といえば、高度の医療技術と安全確保のための諸設備を必要とするインプラント治療の分野でもiDiは大きな役割を果たしています。適正なインプラント治療を受けたいと考える方々に、①医療安全管理 ②感染対策管理 ③患者主体の治療 ④診療の質 ⑤総合的な管理の5つの視点から歯科医療機関を審査・認定するISM（インプラント・セーフティーマーク）制度を2011年に発足させ、現在に至っています。

社会の要請に応えた各種研修の実施

歯科医療では外科処置が多くを占めていることから、歯科診療に伴う偶発症など緊急時の対応や院内感染の可能性を常に想定し、防護のための施策がとられなければなりません。そのため歯科診療報酬では2008年、総合的な歯科医療環境の整備に向けた取り組みを評価するため「外来環」が新設されました。

iDiが設立当初から推進してきた歯科医療機能評価で患者安全のための診療内容はもちろん、管理環境や運営環境の評価活動が診療報酬として具体化された最初の成果といえるでしょう。こうした活動の実績が評価され、2013年からは、外来環算定に必要な医療安全対策に関する研修を修了した常勤の歯科医師が1名以上配置されているとされた要件を満たす研修をiDiが実施できることとなり、全国各地で多くの歯科医師の皆様に受講していただいています。

さらに2016年からは「か強診」の届出に必要な研修の実施団体として厚生労働省の認可をいただき、多くの歯科医師の皆様に受講していただいています。この研修では、歯科疾患の重症化予防に資する継続管理に関する知識、高齢者の心身の特性と緊急時対応などに関する知識を十分身につけ、高齢化社会に求められる歯科医療を実践していただくのが狙いです。

特にiDiが長年にわたって提言してきた院内感染防止の重要性は、2018年の歯科外来診療における院内感染防止対策を評価した歯科初診料・再診料の見直しとして結実し、現在に至っています。

歯科医療のあり方を問う各種セミナーを実施

iDiは設立以来、歯科医療従事者を対象とする数々のシンポジウムやiDi歯科学会の開催を通して、歯科医療のあり方そのものを問う活動にも注力してまいりました。たとえば、歯科医師の適正需給問題、現在注目されている医科歯科連携の推進といった大きな課題にも真正面から取り組んでいるところです。

2005年にスタートしたシンポジウムでは「国民は歯科医療に何を求めているのか」「歯科医療の『安心・安全』と『質』」、さらには「誰のための歯科医療か」「今後の歯科医療を変えよう!!」、2012年には「すべて患者さんの笑顔のために」といった、歯科医療のあり方そのものを問うテーマを掲げ、意見を交わしてきました。

コロナ感染爆発も歯科医療機関でのクラスター発生を抑制

2020年、中国武漢に端を発する新型コロナウイルス感染症が世界的な感染爆発を示したことをうけて、WHOはパンデミックを宣言するに至りました。その後の数次にわたる感染爆発は皆様の記憶に新しいことと思います。とりわけ感染患者の受け入れに尽くされた国公立病院や地域の中核病院をはじめとする病院の皆様、宿泊療養施設の確保や自宅療養者の容態確認などに昼夜を分かたず奮闘された保健所をはじめとする行政担当者の皆様には、この場をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

一般の医科診療所と同様、歯科診療所でもコロナ感染を恐れた人々が受診を控えたため経営は低水準で推移しましたが、歯科治療に伴うクラスターの発生がほとんどみられなかったのは偶然ではないと考えています。それは、先に述べた院内感染防止の提言が厚生労働省に受け入れられ、患者さんごとにターバンとエンジンヘッドの交換と洗浄消毒・滅菌の励行等が評価された2018年の初診料・再診料の見直しが貢献したものと考えられるからです。この改定を受けて、歯科初診・再診料の届出が急増する中、新型コロナウイルスの蔓延を迎えたわけですが、多くの歯科医療機関では院内感染防止のための標準予防策が日常診療の実践の中で行なわれるようになったこともクラスター発生の抑制につながったのではないでしょうか。

医科歯科連携をベースとしたこれからの歯科医療をめざして

歯科治療の成否が患者の生涯にわたるQOLに大きく影響を与えることは明らかです。特に高齢化が進むわが国では、高齢者が自立した生活を維持し社会生活を継続するうえで、口腔機能の維持改善がとりわけ重要であることが明らかにされつつあります。

歯科医療のあり方についてiDiは早くから、歯を診ることは口腔全体を診ることであり、口腔の健康が全身の健康に深く関わることに着目し、医科分野との連携の必要性を訴えてきました。そうした観点から、誤嚥性肺炎の予防のため、歯科医師と歯科衛生士が高齢者施設を訪問し、口腔衛生環境の維持を目的とした衛生指導や食事指導を通して食生活の見直しなどを行なうと同時に、口からの食事摂取を維持促進するための提言をしてまいりました。

2021年のiDi歯科学会では医科歯科連携の推進を掲げ、これまで見過ごされてきた総合病院における医科歯科合同の教育カリキュラムの実施などを提言するとともに、急性期病院における口腔管理が患者さんの全身管理において果たす役割が極めて大きいことを訴えたところです。

超高齢社会のわが国において、2025年に迫った地域包括ケアシステムの完成に歯科医療機関が果たす役割が大きいことは明らかですが、地域医療提供体制の中に歯科医療機関がどのように参画していくべきか、その方策を見出し実現するにはあまりにも残された時間が短いことを痛感します。しかし、iDiに課せられた課題が大きければ大きいほど、認定歯科医療機関と、志をひとつにする会員歯科医師の中にみなぎる情熱も大きくなります。

これまでiDiを支えていただいた皆様のご期待に応え、患者の安全安心のための情報提供にこれまで以上の汗を流していく所存ですので、さらなる叱咤激励をいただきますようお願い申し上げます。

医科歯科連携の重要性
～周術期等口腔機能管理を総括する～

6月25日（日）、「医科歯科連携の重要性～周術期等口腔機能管理を総括する～」と題したセミナーを厚生労働省の後援のもとオンラインで開催し、多くの方々にご視聴いただきました。3回にわたって考察してきた医科歯科連携をテーマとしたセミナーは、今回がひとまず最終回となります。

当日は、座長をiDi理事の矢島安朝が務め、まず、厚労省で診療報酬を担当する小嶺氏に登壇いただき、歯科保険医療を取り巻く背景と共に令和6年度診療報酬改定に向けた医科歯科連携のあり方についてお話しいただきました。

小松本氏には、病院経営の立場から周術期等管理、脳卒中、外科などへの「リハビリ歯科」の介入による医業収益例を具体的な数字と共に解説いただき、松尾氏は病院内での医科歯科連携のまとめ役としての立場から、周術期口腔機能管理を実践するための口腔内アセスメントによる多職種連携の具体例を提示。山内氏は病院歯科の立場から、双方向の医療連携がもたらす病院経営の効率性や機能評価について、星川氏は呼吸器外科医師としての立場から、高齢者肺炎の予防における周術期口腔機能管理の具体例などを示されました。そして安本氏には麻酔科の立場から、周術期等口腔機能管理や医科歯科連携の推進がもたらす様々な効果についてお話しいただきました。

また、講演以外にも質疑応答やシンポジウムを開催し、積極的な意見交換と問題提起がなされ、非常に充実した内容でお届けすることができました。来年は新たなテーマでセミナーを開催する予定です。貴重な講演が聞かれる機会となりますので、是非多くの方々にご参加いただきたいと思います。

座長

矢島 安朝
iDi理事 / 松本歯科大学東京診療所院長 /
東京歯科大学名誉教授

講演 1　最近の歯科保健医療の動向

小嶺 祐子
厚生労働省 保険局医療課 歯科医療管理官

講演 2　地域医療構想における医科歯科連携について
ーなぜ歯科と医科の連携は進まないのかー

小松本 悟
足利赤十字病院名誉院長 /
藤田医科大学特命教授

講演 3　周術期口腔機能管理における多職種連携の効果

松尾 浩一郎
東京医科歯科大学地域・
福祉口腔機能管理学分野 教授 /
東京医科歯科大学病院
オーラルヘルスセンター センター長

講演 4　周術期口腔機能管理は病院経営に参画できるか？
ー歯科医療の病院内での位置付けー

山内 智博
がん・感染症センター
東京都立駒込病院 歯科口腔外科 指定医長

講演 5　肺切除術後肺炎発症機序と予防戦略
ー周術期等口腔機能管理を十分に機能させるためにー

星川 康
藤田医科大学医学部 呼吸器外科学 主任教授 /
藤田医科大学病院 呼吸器外科 科長

講演 6　周術期等口腔機能管理の実施と効果について

安本 和正
昭和大学 名誉教授

誤嚥性肺炎を予防するための実践講習会
～あなたは誤嚥性肺炎の予防に自信がありますか？～

6月11日（日）、7月9日（日）の両日にわたり「誤嚥性肺炎を予防するための実践講習会」を開催いたしました。

初日は、御茶ノ水ソラシティにおいて鴨田勇司氏と松尾浩一郎氏による事前講習が行なわれました。

鴨田氏による「誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケア」は、摂食嚥下障害の原因やスクリーニング、摂食嚥下リハビリテーションのための「アイスマッサージ」「嚥下反射促通手技」「ガムラビング」などの指導、摂食嚥下リハビリテーションにおけるPAPやPLPの効果などを解説。歯科が果たすべき役割について実践的な内容が詳しく示されました。

松尾氏の「多職種連携で取り組むオーラルマネジメント」では、OHAT（オーハット）の解説が行なわれ、口内状態を把握する取り組みや、スポンジブラシと保湿剤を使った口腔粘膜の保湿や清拭など口腔ケアを参加者同士による相互実習形式で行ないました。

２日目は、埼玉県川口市の特別養護老人ホーム「さくらの里」を訪れ、実践的な演習を行ないました。大越良夫氏によるミールラウンド方法の解説や、実際に施設に入居されている高齢者の方々に対する食後の口腔ケアを行ない、食事時における食べさせ方や介助方法なども学びました。さらにVE（嚥下内視鏡検査）実習では、実際にファイバースコープを鼻から喉に挿入していき嚥下の様子を観察。誤嚥の状態を確認する方法を体験しました。

この実践講習会は口腔ケア、リハビリテーション技術、ミールラウンド、VEの操作など、誤嚥性肺炎を予防するための有益な体験と技術の習得機会になります。来年も開催予定ですので、是非、ご参加ください。

鴨田 勇司
歯学博士
鴨田歯科クリニック院長

松尾 浩一郎
東京医科歯科大学地域・
福祉口腔機能管理学分野 教授 /
東京医科歯科大学病院
オーラルヘルスセンター センター長

大越 良夫
医療法人社団彩雲会
松本歯科医院訪問治療部

松尾氏はオーラルマネジメントの実践方法の座学講習と共に、口腔粘膜を清拭する手技を解説しました。

参加者同士が相互実習形式で口腔ケアを練習しました。自らも口腔ケアをされる側にまわることで、より理解が深まります。

大越氏は介護施設に入居する高齢者への口腔ケアを実際に行ない、噛まれないようにする方法や効率的な清拭テクニックなどを詳しく説明しました。

鴨田氏は介護が必要な方々への誤嚥性肺炎予防の方法や、歯科医師がチーム医療に参加することの重要性を解説しました。

食事の摂取状況から咀嚼能力・口腔機能・嚥下機能・姿勢などに関して評価を行なうミールラウンドを実践しました。

ミールラウンド後は参加者が入居者に対して実際に口腔ケアを行ないました。誤嚥性肺炎の予防につながるため、皆さん真剣に取り組んでいました。

参加者が実際に嚥下内視鏡を操作して、ゼリーやクッキーなどを咀嚼・嚥下する状態を観察し、誤嚥を確認する方法を体感しました。

2023年度の理事会を登録有形文化財「鴨井家」のある新潟県上越市にて開催しました。

2023年7月1日（土）、新潟県上越市においてiDi理事会を開催しました。上越市には理事長・鴨井久一の「鴨井家」があり、江戸末期に建てられた茅葺き屋根の寄棟形主屋と土蔵が2017年に有形文化財として登録されています。また、庭にある樹齢300年といわれる「臥龍の松」は上越市の天然記念物です。この貴重な文化財を見学すると共に理事会を開催。理事一同は様々な知見をさらなる歯科医療の発展につなげるべく、決意を新たにし、今後の活動に役立ててまいります。今後とも、iDiにご支援賜りますようお願い申し上げます。

iDi認定歯科医師インタビュー

総合歯科診療に取り組む地域の「MY歯科」

医療法人健昌会　コマキ歯科
理事長・院長

小巻健二

山梨県甲府市でコマキ歯科を開業する小巻（こまき）健二（けんじ）氏。P.G.I.のセミナーに通って歯科医師として目覚めたと語る同氏は、総合歯科診療をスタートさせ、患者さんのあらゆる悩みに応える歯科医院として地域に貢献してきた。MY歯科をスローガンに「待たせない」「痛くない」「知りたいことの説明」「快適なサービス」を提供する同氏の様々な取り組みに迫る。

・ICOI（国際口腔インプラント学会）認定医
・P.G.I.（Practical Gnathology Institute）役員

様々な分野を学び直し総合歯科診療へと舵を切る

「1985年に開業しましたが、今にして思えば開業当初は虫歯と歯周病しか頭になく、患者さんのお悩みを解決できなかったこともありました。それが2000年頃にP・G・I・のセミナーに通い、咬み合わせが悪いと、虫歯や歯周病がなくても口の中に痛みが現れたり、頭痛や肩こり、目まいなどの原因になると知りました。解決できなかった原因が咬み合わせにあったと気付き、根本から勉強しなおそうと決めましたね」

P・G・I・は、1984年に寿谷一氏が設立した咬合学の研究機関であり、寿谷氏が亡くなった後、本誌2022年秋号に掲載した西川歯科医院の西川洋二氏が代表を務めている。同氏は西川氏のもとで、解剖学、生理学、診断学、咬合学、矯正学など様々な分野を学び「総合歯科診療」へと舵を切った。以来、咬み合わせを含め、口の中を総合的に診て、根本的な原因を解決することで、患者さんのあらゆる悩みに応えている。

「患者さんの大部分は自分が虫歯になったと思って来院しますが、痛みの原因がどこにあるかわからない方が多いのが現実です。実際、虫歯ではなく口内炎だったということもあります。ですが、患者さんは原因がわかれば安心するもの。とにかく口の中を総合的に診断し、原因を特定して、不安を解消することが治療のスタートです」

同医院のスローガンは「MY歯科」（まいしか）である。これは「待たせない」「痛くない」「知りたいことの説明」「快適なサービス」の頭文字を取ったものだそうだ。

同医院は多数のユニットを設置し、Web予約も可能にすることで「待たせない」治療を心がけている。また、スタッフの体制を充実させ、女性歯科医師が細やかな気配りで治療してくれる歯科医院としても評判が高い。

また、「痛くない」治療にも熱心だ。

「私自身が痛みに弱いんです（笑）。子どもの頃、歯医者に行っても先生を困らせるほど、暴れるというか、それほど痛みが嫌いでした。歯科医師になろうと思ったのも、痛くない方法を追求しようと考えたのがきっかけでもあります」

同氏は、痛みのない治療のために、様々な機器を導入している。レーザーも「炭酸」「ネオジウム」「エルビウム」の3種類を導入。麻酔注射の前には炭酸レーザーを当ててから針を打ったり、笑気吸入鎮静法も導入し、無痛治療を心がけている。

「最新機器はとても重要です。歯の内部は眺めてもわかりません。そこで咬み合わせも含め、マイクロスコープや3DCTなど最新の機器を駆使して総合的に診断します。ですから、セカンドオピニオンで来院される方も数多くいらっしゃいます。他の歯科医院で解決できなかったことも、当院なら何とかしてくれると思われる方も多いようです」

同氏の3人の娘さんは全員が歯科医師になり、2人の娘さんが常勤で活躍している。女性歯科医師が細かい気配りやていねいな説明・治療をしてくれる歯科医院としても評判が高い。

同氏は、治療にあたり患者と徹底的に話し合い、不安や恐怖心を和らげ、安心して受診できるよう、徹底したコミュニケーションを心がけている。

「たとえば歯周病の方が一番知りたいことは、どうすれば治るかです。それも一般論ではなく、その患者さん個人特有の方法です。治すことはもちろんですが、それを知るために患者さんは来院しているわけです」

同氏は、患者の希望を最大限に採り入れながら、最新の技術を以って的確な治療に臨み、同時に「知りたいことの説明」をていねいに行なっているのだ。

快適なサービス提供のためクレンリネスや訪問診療にも取り組む

同氏は「快適なサービス」の提供にも熱心だ。完全バリアフリーやキッズルームの設置はもちろん、20台以上停められる駐車場など、患者目線の設備を導入している。中でも患者の快適さを維持するため「清潔」の追求に余念がない。

「クレンリネスという清潔で快適な状態を保つことを重視しています。スタッフ全員が清掃を行ない、いつもキレイな状態を保つようにしています。椅子の車輪も毎日清掃します。実は、椅子の車輪は綿ゴミが溜まるので結構重要な清掃ポイントなんですよ」

同院では清掃に専門業者を入れていないのは、スタッフが自ら熱心に清掃をするのはもちろん、「汚れたらすぐに拭く」など手間を惜しまない習慣づけができていることにある。それは「大掃除をしなくても済む」ほどの徹底ぶりだ。

さらに、ヨーロッパ基準EN13060のクラスB規格をクリアするオートクレーブや、高温高圧滅菌器なども数多く導入し、常に徹底した衛生管理を行なっている。

また同氏は訪問診療にも積極的に取り組んでいる。訪問診療に使用する専用車3台を用意し、訪問診療専門の歯科医師が常駐しているほか、同氏自らも訪問診療に赴く。

「開業して40年近く経っていたこともあり、高齢化のため通えなくなった患者さんから、訪問診療をして欲しいというお声も数多く頂戴していました。iDiに加入して誤嚥性肺炎予防のセミナーを受講しましたが、そこで訪問診療への取り組みを松本専務理事から強く勧められたこともあり、訪問診療のノウハウを学んで6年程前からスタートしました。患者さんにも喜んでいただいておりますし、本当にやってよかったと思います」

地域の患者さんに信頼される「MY歯科」として「待たせない」「痛くない」「知りたいことの説明」「快適なサービス」を実践する治療に取り組み続ける同氏。「一生口から美味しく食べられる」ことを目標に「コマキ歯っぴー予防クラブ」という、お口のフィットネスクラブも開設し、子どもから高齢者まで数多くの患者に定期的なメインテナンスや歯磨き指導などの数々のサービスも提供している。

「〝コまかいところまでマっしろ清潔キれいな医院〟のコマキ歯科として、これからも地域のMY歯科として頑張っていきたいと思います」

「P.G.I.」のCertificate授与式の写真も飾られている。現在も様々な形でP.G.I.に関わり、最新技術や機器の導入をはじめ、総合歯科診療をますます進化させるべく研鑽を積み、後進の指導も積極的に行なっている。

専門のスタッフが常駐し3台の車で訪問歯科診療を行なっている。患者の家や介護施設等を訪問し、歯科治療はもちろん継続的な口腔ケアを行ない、高齢者の誤嚥性肺炎予防にも寄与している。

中央自動車道の甲府昭和インターから車で約2分の好立地にあるコマキ歯科。20台以上停められる駐車場もあり、広範囲から患者が訪れる。明るく清潔な同医院は完全バリアフリーを実現し、患者の快適を追求している。

医療法人健昌会
コマキ歯科
山梨県甲府市徳行4-6-6　055-228-7689
https://www.komaki.or.jp/

iDi認定歯科医師インタビュー

医科と介護の連携による トータルな 歯科医療を提供

医療法人緑歯会　グリーン歯科
理事長・院長

竹内貴広

埼玉県鴻巣市で「グリーン歯科」を開業する竹内貴広（たけうち たかひろ）氏。同氏は医師である兄と共に2009年に同じビルに歯科とクリニックを同時に開業した。兄弟による医科歯科連携を実現し、地域医療に大きな貢献を果たしている。今年中にはデイサービスも開業予定で、さらなる連携を実現する同氏の活躍に迫る。

広く開放的な診療フロアには6台のユニットが並ぶ。常に清潔に保たれ、患者に安心感を与える明るい環境を実現している。口腔外バキュームなども早くから導入し、衛生管理にも余念がない。

医師の兄と共に歯科とクリニックを同時に開業

「母が医療の家系で、子どもの頃より医療の道に進んで欲しいといわれていました。私自身は医療系に進むつもりはなかったのですが、何か人の役に立ちたいという気持ちがあり、高校3年の時にギリギリで歯科医師を目指すことにしました」

そして同氏は歯科医師に。同氏の兄は医師になった。その時から開業する際には、一緒の場所で立ち上げようと決めていたそうである。

しかし、歯科だけならまだしも、医科の同時開業は資金的にもそんなに簡単ではない。同氏は経験を積むため、ある医療法人に勤めることにした。

「15年ほど勤めましたが、大変勉強になりましたね。患者のためにできることはすべてするという方針でしたので、とにかく患者さんに対するサービスの大切さというものを学びました」

多くの経験を積んだ同氏は2009年にグリーン歯科を開業。兄と共に3階建てのビルを新築し、2階フロアに歯科医院を開設した。そして1階には兄が「たけうちクリニック」と「訪問看護ステーション明里」をオープン。兄弟が強固なタッグを組み、地域に貢献する「医科歯科連携」が実現した。

「1階がクリニックですので、患者さんにとっても多くのメリットがあると思います。検査も1回で済む場合がありますし、投薬の無駄もありません」

患者にとっても1回の通院で両方を診て貰えるということもあり、歯科とクリニックの両方に通院している方々も非常に多いそうだ。もちろん、患者にとってのメリットはそれだけではない。

「たとえば糖尿病の患者さんは歯周病に罹りやすいので、クリニック側から口腔の検査やケアを依頼されることも多いです」

近年、歯周病など口腔内の状態や症状が、様々な全身疾患を引き起こす要因になると指摘されるようになった。しかし、グリーン歯科とクリニックでは、しっかりした連携が行なわれているので、患者にトータルな診療を提供できる。

歯科用の3DCTも完備。開業当初はクリニックの医療用CTを使用していたため歯科用のCTは導入していなかったが、やはり細かい点で歯科用との違いがあり導入を決めたそうだ。クリニックの機器も合わせ、相当数の最新設備による安心な歯科治療を提供している。

「もちろん、私自身も安心できることが多いです。インプラント治療時の麻酔も安心ですし、たとえば基礎疾患がある高齢者の方は、歯科の治療中に体調が悪くなったり、局所麻酔時にアナフィラキシーショックで低酸素症になる可能性もあります。そのような場合も階下に医師や看護師がおりますので、すぐに対処できます。また、開業当初は点滴を行なう際に、血管が細くて難しい場合にクリニックの看護師にお願いしたこともあります。クリニックは水曜と土曜が休診ですが、訪問看護ステーションには看護師が年中無休で常駐していますので、本当に心強いです」

このような兄弟による強固な医科歯科連携は、すぐに近隣の大きな評判となった。特にグリーン歯科は、基本的に年中無休で診療を行ない、患者のスケジュールに合わせて通院が可能な地域の「かかりつけ歯科」として多くの患者が訪れるようになった。

「年中無休にしたのは、前職で学んだ患者さん第一というモットーを実践したからです。やはり患者さんに通いやすいと思っていただけることが大切です」

多くの患者さんに信頼される歯科医師として常に第一線に立ち続ける同氏。インプラントも同氏が行ない数多くの症例数を誇っている。

デイサービスを新たに開業し訪問歯科診療の実現も目指す

グリーン歯科のモットーは、地域に密着した「歯とお口のかかりつけ医」として、患者の健康を守るべく全力を尽くすことにある。

一般歯科、小児歯科、矯正、インプラントなどの様々な歯科医療を提供し、最新の設備と長年培った高い技術をもとに、ていねいな治療を心がけている。

「設備に関しては、ひととおり揃っていると思います。しかし、歯科の世界は日々進化していますので、常に最新技術や情報も採り入れ、より安全で安心な治療ができるよう努めています」

階下のクリニックにある設備も併せた最新の歯科医療を提供できることも大きく、医科歯科連携の安心感と年中無休の利便性もあって、同院には高齢者だけでなく、非常に幅広い年齢層の患者が訪れている。

「現在、歯科医師5名、歯科衛生士5名で6台のユニットを回していますが、それでも患者さんをお待たせしてしまうことも多いです」

同医院には連日非常に多くの患者が訪れるため、同氏は休む暇もなく常に第一線で頑張り続けている。それは、地域の人たちの口の健康を守る「身近な健康パートナー」でありたいという熱い想いからだ。そんな同氏の想いを形にするさらなる一歩が「デイサービス」である。今年中にビルの3階に「通所介護施設」を開業する見込みだ。

通所する利用者に口腔ケアなどのサービスも提供する予定で、誤嚥性肺炎の予防など、高齢者の健康維持にもさらに貢献できる。もちろん、訪問看護とデイサービスの親和性も高い。

「今後の課題は、やはり訪問歯科診療ですね。現在のところ訪問歯科診療は行なっておりませんので、訪問看護ステーションとの連携はできていません、訪問看護と訪問歯科診療が連携できれば、口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防など患者さんにもっと貢献できることはわかっているのですが、とにかく人手が足りないのです」

歯科とクリニックの連携。さらに訪問看護とデイサービスの新たなパートナーシップ。そして今後、訪問歯科診療が実現すれば、ワンストップで患者や地域に安心を提供できる素晴らしいサービスとなるに違いない。

同氏の挑戦に終わりはない。これからも何でも相談できる「かかりつけ歯科」として総合的なサービスを提供し、地域医療の向上に貢献し続けるだろう。

3階建てのビルの2階にグリーン歯科があり、1階には兄が経営する「たけうちクリニック」と「訪問看護ステーション明里」が入っている。3階にはデイサービスを開設予定で、歯科・医科・介護を横断するトータルな医療を提供しようとしている。

医療法人緑歯会
グリーン歯科
埼玉県鴻巣市本町2-1-7 広総業ビル2F　048-543-8899
https://www.greendental-cl.jp/

iDi研修会のご案内

iDi研修会

歯援診 / か強診 **在宅療養支援歯科診療に関する総合的研修会**
外来環 / 歯初診 **歯科医療安全に関する総合的研修会**

9/10(日) 2023

会場 **AP大阪茶屋町** 8階 C・Dルーム
〒530-0013 大阪市北区茶屋町1-27 ABC-MART梅田ビル 8F

会場/オンライン開催
新型コロナウイルス感染症対策のため、本研修会は現地開催、及びオンライン配信のハイブリッドWEB方式で開催します。

歯援診 / か強診
講師:高橋 一也 大阪歯科大学 高齢者歯科学講座 教授
①在宅療養支援歯科診療に関する総合的研修会
10:00～12:00 (受付開始 9:30～)
研修会後に施設基準申請手続きについてiDi事務局から連絡 12:00～12:10 担当:iDi事務局

外来環
講師:丹羽 均 大阪大学大学院歯学研究科口腔科学専攻 高次脳口腔機能学講座 教授
②歯科医療安全に関する総合的研修会
13:00～14:30 (外来環のみ受講 受付開始 12:30～)
研修会後に施設基準申請手続きについてiDi事務局から連絡 16:20～16:30 担当:iDi事務局

歯初診
講師:泉福 英信 日本大学 松戸歯学部 感染免疫学講座 教授
③歯科医療安全に関する総合的研修会
14:50～16:20 (歯初診のみ受講 受付開始 14:20～)

11/26(日) 2023

会場 **御茶ノ水ソラシティ** カンファレンスセンター1階 Room D
〒101-0062 東京都千代田区 神田駿河台 4-6

会場/オンライン開催
新型コロナウイルス感染症対策のため、本研修会は現地開催、及びオンライン配信のハイブリッドWEB方式で開催します。

歯援診 / か強診
講師:森戸 光彦 鶴見大学 名誉教授
①在宅療養支援歯科診療に関する総合的研修会
10:00～12:00 (受付開始 9:30～)
研修会後に施設基準申請手続きについてiDi事務局から連絡 12:00～

外来環
講師:福田 謙一 東京歯科大学 口腔健康科学講座 教授
②歯科医療安全に関する総合的研修会
13:00～14:30 (外来環のみ受講 受付開始 12:30～)
研修会後に施設基準申請手続きについてiDi事務局から連絡 14:30～

歯初診
講師:泉福 英信 日本大学 松戸歯学部 感染免疫学講座 教授
③歯科医療安全に関する総合的研修会
14:50～16:20 (歯初診のみ受講 受付開始 14:30～)
研修会後に施設基準申請手続きについてiDi事務局から連絡 16:20～

■参加費 (会場/オンライン共)

	歯援診(か強診を含む)	外来環と歯初診	外来環のみ	歯初診のみ
一般(会員以外)	30,000円	30,000円	20,000円	20,000円
iDi/ISM 認定会員	5,000円	5,000円	3,000円	3,000円

※災害や講師急病等やむを得ない事情で中止となった場合、参加費の全額返還、もしくは次回開催に振替させていただきます。但し中止によって生じた、旅費、宿泊費や届出の遅れによる逸失利益など、参加者各位の損害については補償できません。ご同意のうえお申し込みください。

2023年 iDi歯科学会 国民皆歯科健診が実現したらどのような結果が見込まれるか

大会長 加藤仁夫

参加費 **無料**

9/3(日) 2023

10:00～18:00 (受付9:30～)
会場 **AP新橋** A-PLACE新橋駅前4階Dルーム
〒105-0004 東京都港区 新橋1-12-9

会場/オンライン開催
新型コロナウイルス感染症対策のため、本研修会は現地開催、及びオンライン配信のハイブリッドWEB方式で開催します。

特別講演 **現在の歯科健診の実情**
小椋 正之 厚生労働省医政局歯科保健課課長

講演1 **医科歯科連携と国民皆歯科健診**
松尾 浩一郎 東京医科歯科大学地域・福祉口腔機能管理学分野 教授 / 東京医科歯科大学病院 オーラルヘルスセンター センター長

講演2 **歯周病と国民皆歯科健診**
吉成 伸夫 松本歯科大学歯科保存学講座教授

講演3 **口腔がんと国民皆歯科健診**
野村 武史 東京歯科大学市川総合病院 歯科・口腔外科部長 / 口腔腫瘍外科学講座主任教授

講演4 **インプラントと国民皆歯科健診**
矢島 安朝 iDi理事 / 松本歯科大学東京診療所院長 / 東京歯科大学名誉教授

講演5 **国民皆歯科健診がなぜ必要か？ ― 高齢者歯科の視点からエビデンスを基に語る ―**
池邉 一典 大阪大学大学院歯学研究科教授

※歯科学会終了後 懇親会を開催しますので、是非ご出席くださいませ。

参加をご希望の方は、iDiホームページよりお申し込みください。
iDi歯科
https://www.identali.or.jp/

研修会・歯科学会についてのお問い合わせ 03-5842-5540
お預かりした個人情報は、本研修会の運営並びにiDiから参加者への情報提供以外の目的には使用いたしません

じゅらいじゅらい/PIXTA

On the Cover [今号の表紙写真]
日本の橋「長生橋(ちょうせいばし)」(新潟県)
新潟県長岡市の信濃川に架かる「長生橋」は長さ850.8mのトラス橋。現在の長生橋は1937年に竣工し、多連・上曲弦方式のトラス橋としては国内に唯一現存する橋でもある。毎年8月2日と8月3日に開催される「長岡まつり大花火大会」では、同橋にナイアガラ花火が仕掛けられ、三尺玉との競演で浮かび上がる姿は長岡花火の名物ともなっている。また、例年4月から12月にはライトアップされ、多くの市民の目を楽しませている。

iDi info 2023夏号
企画・発行:特定非営利活動法人 歯科医療情報推進機構
〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目24-17ネクストビル403
編　集:庄司信晴(PAL)・松井英樹(PAL)
撮　影:小林伸
デザイン:上野はじめ
Copyright © 2023 iDi All Rights Reserved.
●本紙掲載記事の無断転載を禁じます。

iDi 歯科医療情報推進機構とは?

歯科医療の安全の確保と質の向上を目指し、国民の健康と福祉に寄与することを目的として2005年に設立された、歯科医院を審査・認証する、日本初となる「第三者評価機関」です。

理念

患者さんから
「私にとって、かけがえのない歯医者さん」
と呼んでもらえる歯科医院をめざして

目的

- 評価基準に基づき第三者機関として歯科医院の機能評価を公正に行なう。
- 機能評価において一定の水準を満たしていると評価・認定された歯科医院を「患者さんに選ばれる歯科医院」として情報発信する。
- 安心・安全で適切な歯科医療情報を広く国民に提供する。
- 歯科医院は、第三者に評価されることによって機能や診療、患者サービスの質を客観的に把握でき、従業員の自覚と意欲のさらなる向上を図ってもらう。

iDi認証マーク

「iDi認証マーク」は、安心・安全な歯科医療機関として広く国民に訴求するための標章です。

ISM(インプラントセーフティーマーク)

「インプラントセーフティーマーク」は、安心・安全なインプラント治療を受けられる歯科医療機関として広く国民に訴求するための標章です。

法人概要
iDi Institute of Dental Information
特定非営利活動法人
歯科医療情報推進機構
https://www.identali.or.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目24-17ネクストビル403
理事長 鴨井久一 日本歯科大学名誉教授
TEL 03-5842-5540 FAX 03-5842-5541
設立:2005年3月10日

「在宅療養支援歯科診療に関する総合的研修会」「歯科医療安全に関する総合的研修会」を開催しました。

2023年5月14日(日)、東京・御茶ノ水ソラシティにおきましてiDi研修会を現地とオンライン配信のハイブリッドで開催。数多くの現地受講と共にオンラインで多数の方々に閲覧いただきました。同講習会は大阪で2023年9月10日(日)、東京で2023年11月26日(日)にも開催予定です。是非、ご参加ください。

【歯援診・か強診】
「高齢者の心身の特性」「口腔機能の管理」「緊急時対応」「歯科疾患の重症化予防に資する継続管理」
講師:高橋 一也
大阪歯科大学高齢者歯科学講座 教授

【外来環】
「偶発症に対する緊急時の対応」「医療事故に対する対策・対応」
講師:福田 謙一
東京歯科大学口腔健康科学講座 教授

【歯初診】
「新型コロナ感染症と歯科医療における院内感染対策」
講師:泉福 英信
日本大学松戸歯学部 感染免疫学講座 教授

nanozilla
ナノ・ジーラ

これからの除菌作業は
もっとカンタンに

抗ウイルス　除菌　抗菌

噴射モードの場合

噴霧モードの場合

ドアノブ　ユニット　白衣　など
接触頻度の高い部分を中心に
ワンポイント除菌＆抗菌

待合室　診察室　トイレ　など
置いておくだけで1部屋2～3時間
でミストが隅々まで行きわたる

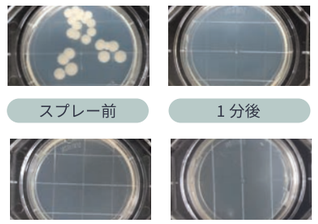
99.9%※1 除菌
24時間 抗菌
防カビ＆消臭

素材を傷めない　成分臭ゼロ　安全性検証試験済み

付属の専用除菌液は銀イオンを主成分として作られており、ナノ・ジーラと組み合わせることで効果を発揮します。細菌やウイルスに対し、99.9%(※1)以上の高い除菌力を1日1回の噴霧で24時間持続するので作業の簡素化も実現します。

※全ての菌・ウィルスに効果があるわけではありません
※1 本結果は一定の条件下で行われた試験結果であり、使用状況により効果が異なる場合がございます。

nanozilla 専用液の持続性



nanozilla スターターキット
専用銀イオン除菌液5L付き　24,200円(税込)

WEBから購入できます
詳しくはこちら ▶▶▶▶
nanozilla

ピカッシュ
〒869-1102
熊本県菊池郡菊陽町原水2849-1
商品に関するお問合せ: 096-342-1081
公式ホームページ:https://pikasshu.jp/

ジーシー昭和薬品は 歯科用局所麻酔薬に関する情報を 提供しています。

ORA DENTAL TOPICS

- No.29 歯科用局所麻酔薬の種類と使い分け
  昭和大学歯学部全身管理歯科学講座 歯科麻酔科学部門 教授　飯島 毅彦先生
- No.28 亜酸化窒素（笑気）吸入鎮静法
  北海道大学大学院歯学研究院 口腔病態学分野 歯科麻酔学教室 教授　藤澤 俊明先生
- No.27 循環系合併症を有する患者の歯科治療
  徳島大学大学院 医歯薬学研究部 歯科麻酔科学分野 教授　北畑 洋先生
- No.26 小児患者の緊急対応
  日本大学 松戸歯学部 歯科麻酔学講座 准教授　山口 秀紀先生
- No.25 伝達麻酔なんて怖くない!
  日本歯科大学生命歯学部 歯科麻酔学講座 教授　砂田 勝久先生
- No.24 世界の歯科局所麻酔事情
  東京歯科大学 歯科麻酔学講座 教授　一戸 達也先生
- No.23 アドレナリン含有リドカイン塩酸塩製剤の併用注意薬を服用する患者への対処
  松本歯科大学歯科麻酔学講座 教授　澁谷 徹先生
- No.22 抗血栓薬服薬患者の歯科診療室における知的局所麻酔管理
  北海道医療大学歯学部 生体機能・病態学系歯科麻酔科学分野
  工藤 勝先生　大桶 華子先生　三浦 美英先生
- No.21 局所麻酔に起因するトラブルの対処法
  東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学分野 教授　深山 治久先生
- No.20 歯科治療時の疼痛管理と術後鎮痛
  日本歯科大学 新潟生命歯学部 歯科麻酔学講座 教授　佐野 公人先生
- No.19 糖尿病と歯科治療
  埼玉医科大学 医学部 臨床医学部門麻酔科 教授　長坂 浩先生
- No.18 呼吸器疾患を有する患者への対応
  福岡歯科大学 診断・全身管理学講座 麻酔管理学分野 教授　谷口 省吾先生
- No.17 高齢者に対する歯科用局所麻酔剤の注意点
  神奈川歯科大学 生体管理医学講座 麻酔科学 教授　吉田 和市先生
  准教授　有坂 博史先生
- No.16 妊婦・授乳婦への歯科局所麻酔薬投与について
  愛知学院大学 歯学部 麻酔学講座　金澤 真悠子先生　原田 純先生
- No.15 局所麻酔の合併症～びらんと潰瘍
  鶴見大学 歯学部 歯科麻酔学教室　深山 治久先生
- No.14 「私は麻酔の注射でアレルギーが出たことがあります…。」と、患者が言った。さあ、どうしよう。
  東京歯科大学 歯科麻酔学講座　一戸 達也先生
- No.13 歯科用リドカインカートリッジに含まれる添加剤について
  神奈川歯科大学 麻酔学教室 教授　吉田 和市先生　講師　有坂 博史先生
- No.12 合併症を有する患者への対応part.2
  日本大学 松戸歯学部 歯科麻酔学教室 教授　渋谷 鉱先生
- No.11 合併症を有する患者への対応part.1
  日本大学 松戸歯学部 歯科麻酔学教室 教授　渋谷 鉱先生
- No.10 患者急変時何をすべきか、歯科診療室における初期救急!
  日本歯科大学 新潟歯学部 歯科麻酔学講座 教授
  附属病院 歯科麻酔科長 附属病院 障害者歯科センター長　佐野 公人先生
- No.09 小児歯科医療現場での危機管理
  松本こども歯科クリニック 院長（福岡県前原市）
  九州大学歯学部 臨床助教授　松本 敏秀先生
- No.08 小児に対する歯科局所麻酔について考える
  日本大学 歯学部 歯科麻酔学教室　見崎 徹先生
- No.07 さらなる安全な局所麻酔薬を求めて
  日本大学 松戸歯学部 歯科麻酔学教室 教授　渋谷 鉱先生
- No.06 痛くない局所麻酔
  日本歯科大学 歯学部 歯科麻酔学講座 助教授
  附属病院 多目的診療科長　高橋 誠治先生
- No.05 局所麻酔による全身的偶発症～その予防と処置
  東京女子医科大学 歯科口腔外科 教授　扇内 秀樹先生
- No.04 局所麻酔による全身的偶発症
  保土ヶ谷歯科医師会　伊藤 洋一先生　金子 守男先生
- No.03 見直される局所麻酔と将来展望
  日本歯科大学 歯学部 歯科麻酔学教室　高橋 誠治先生
- No.02 臨床に役立つ局所麻酔の話
  鶴見大学 歯学部 歯科麻酔学教室　野口 いづみ先生
- No.01 保存治療における注射部位とオーラ注の使用について
  日本大学 歯学部 保存学教室 歯内療法学講座　斎藤 毅先生　塩野 真先生
  抜歯のための局所麻酔法
  昭和大学 歯学部 第一口腔外科学教室　道 健一先生　松井 義郎先生

資料請求先
株式会社 ジーシー昭和薬品
TEL:0120-648-914
〈受付時間〉9:00～17:30（土・日・祝日・弊社休日を除く）

歯科用局所麻酔剤
劇薬、処方箋医薬品（注意―医師等の処方箋により使用すること）

オーラ®注歯科用カートリッジ 1.0mL・1.8mL
薬価基準収載
リドカイン塩酸塩・アドレナリン酒石酸水素塩注射剤

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元
株式会社 ジーシー昭和薬品
東京都板橋区蓮沼町76番1号

ODTA41C-22SCP02
2022年9月作成